

3. 教員の立場から

越野 寿

北海道医療大学歯学部 口腔機能修復・再建学系 咬合再建補綴学分野



本シンポジウムでの私の役割は、教員の立場から本事業を紹介することです。今回は北海道医療大学歯学部代表としての教員、ワーキンググループ (WG) の一員としての教員、高齢者歯科学を担当する教員の3つの観点からお話を進めたいと思います。

1. 北海道医療大学歯学部代表としての教員

3大学の種々の専門領域の先生方に加えて、地域歯科医師会の先生にも参画いただき、一緒に教育を考える機会を得たのが本事業でした。北海道医療大学歯学部からも本事業構成員として、講座の垣根を越えた種々の領域の教員がワーキンググループの一員として参画することで、高齢者歯科学教育のすそ野を広げることができました。また、地域歯科医師会の先生方との交流が活発になり、それが、開業の歯科医師会の先生方に臨床実習教育を担当していただく学外臨床実習の実施に繋がりました。

2. ワーキンググループの一員としての教員

私が担当したWG4の担当分野は「地域におけるチーム医療(慢性期)」でしたが、構成員には種々の専門領域の先生に加え、日頃より地域医療に尽力されている歯科医師会の先生方がおり、このメンバーならやり遂げられると感じられるものでした。

初期のころに教材作りの展望を十分に検討し、ステップ1の基本知識の修得として「高齢者の理解」→ステップ2の応用力の養成として「脳梗塞患者の理解」→ステップ3の実践できる歯科医師の養成として「脳梗塞患者への訪問歯科診療」の流れで教育教材を開発することとしました。

3. 高齢者歯科学を担当する教員

北海道医療大学歯学部には高齢者歯科学講座がなく、有床義歯補綴学分野を担当している咬合再建補綴学分野を中心として教育を担当しております。そのため、「超高齢社会に対応できる歯科医師の養成」を考えたときに、カバーしきれない部分があり、その対応に苦慮しておりましたが、本事業は、その問題を解決してくれるものでした。

略 歴

学 歴	昭和 60 年 3 月	東日本学園大学歯学部卒業
	平成 5 年 9 月	博士(歯学)取得(北海道医療大学)

職 歴	昭和 60 年 4 月	東日本学園大学歯学部臨床研究生
	昭和 60 年 10 月	東日本学園大学歯学部助手
	平成 5 年 11 月	東日本学園大学歯学部講師
	平成 8 年ー平成 9 年	米国 U C L A 歯学部客員研究員
	平成 15 年 4 月	北海道医療大学歯学部助教授
	平成 19 年 4 月	北海道医療大学歯学部准教授
	平成 22 年 10 月	北海道医療大学歯学部教授
	平成 25 年 4 月	北海道医療大学歯学部教務部長

学会活動	日本補綴歯科学会	代議員
	日本老年歯科医学会	代議員
	日本咀嚼学会	理事
	日本歯科医教育学会	評議員
	日本磁気歯科学会	学術担当理事
	日本顎顔面補綴学会	代議員
	日本口腔ケア学会	評議員

文部科学省 大学間連携共同教育推進事業

歯科医師会とITを活用した
超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成

第2回 公開シンポジウム

2. 本事業の成果をより活用するために —地域連携歯科医療実習への応用— 教員の立場から

北海道医療大学歯学部
口腔機能修復・再建学系 咬合再建補綴学分野
越野 寿

コンテンツ

- 北海道医療大学歯学部代表としての教員
大学としての本事業に参画する立場から
 - 大学・講座の垣根を越えた教員
 - 歯科医師会との連携
- ワーキンググループの一員としての教員
教材を作る立場から
 - 口腔乾燥症
 - 基礎疾患を有する患者の歯科診療
 - 地域におけるチーム医療（急性期・慢性期）
- 高齢者歯科学を担当する教員
講義を担当する立場から
 - IT技術への教員の能力
 - IT技術への学生の能力
- まとめ
地域連携歯科医療実習への応用

各大学のWS参加者

	昭和大学	岩手医科大学	北海道医療大学
WG1	三嶋健二、安原理佳 片岡嗣雄 新谷 悟、鎌谷宇明、 佐藤裕二	小柳啓也 古屋 出	安彦善裕、吉田光希 高津航行
WG2	飯島毅彦、岡 秀一郎 豊沼佳史、須田裕子、 谷 千尋、幸島慶雄	城 茂治、佐藤健一 近藤尚和	草野 薫、河野 舞 野島正人、倉里志宗
WG3	向井美恵、弘中祥司 勝部直人 岡本 徹、塩津二郎、 矢部隆司、橋本和則、 下山忠明、中村豪介、 間瀬豊司、鈴木 浩、 埜口潮人	岸 光男 藤村 朗 三善 潤	千葉逸朗、入江一元 松岡純史 河野崇志
WG4	佐野晴男、丸岡 靖史、 北川 昇、マイヤース三恵、 村上光弘、高崎一郎、 齋藤 一人、石原智彦、 小幡宏一、塩津一郎	須和部京介 橋場友幹	越野 寿、豊下祥史 大森幹朗、天野大輔

赤：基礎系教員 黄：臨床系教員（高齢者系を除く） 黒：高齢者系教員

1. 北海道医療大学歯学部代表としての教員

大学としての本事業に参画する立場から

- 大学・講座の垣根を越えた教員
大学、臨床、基礎の垣根を超えたグループが、「超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」をテーマに取り組む
「超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」は単独分野の教育では成し遂げられない。
⇒FDとしての効果
- 歯科医師会との連携
これまでに教育という観点での交流がほとんどなかった地域歯科医師会とのパイプが形成された。
⇒地域連携歯科医療実習の実現に近づく

カリキュラム上の効果

本プログラムに参画したことによって、第3, 4, 5学年にわたって、システマティックに高齢者歯科医学関係の学習を行う授業設定がなされた。

⇒カリキュラム改革

1教員だけでは成し遂げられない教材開発を、3校が連携することで充実した教材に仕上がりに、臨床現場で働いている歯科医師会の先生方からのご意見も、的確に得られる本事業の特徴が教材開発に有効に機能しているものと考えられる。

⇒教育力の向上

結果として、時代のニーズにこたえられる超高齢社会に対応した歯学教育の充実に大きく貢献したものとする。

2. ワーキンググループの一員としての教員

学習の流れ

STEP1(第3学年):基礎的な知識をeラーニングで身につける。

↓

STEP2(第4学年):臨床推論能力、コミュニケーション能力を育成する。

↓

STEP3(第5学年):臨床における自己学習・評価能力を養う。

学習テーマ

- WG1: 口腔乾燥症
- WG2: 基礎疾患を有する患者の歯科診療
- WG3: 地域におけるチーム医療（急性期）
- WG4: 地域におけるチーム医療（慢性期）

学習ツール

Moodle、Virtual Patient (VP)、ポートフォリオ



③ 自由課題

VPに対して医療面接を行いなさい。

口内法エックス線写真

パノラマエックス線写真

初診時口腔内

現病歯の状態

歯度の適合検査

咬合接触検査

VPとの医療面接によって得られた情報のメモ書きと問診票をもとに対診書を製作中

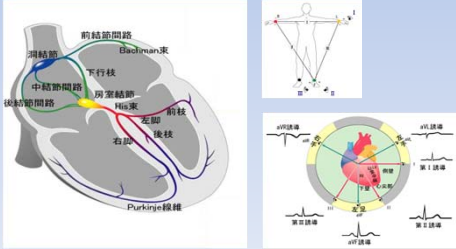
③ 自由課題

全身と口腔の関連に関する動画を閲覧し、以下の点について考えさせる。

1. ビデオを見て、キーワードと思われる単語を5つ書きなさい。
2. ビデオを見て、感じたところを述べなさい。

④ リソース講義

1. 高齢者の疾患について (10分)
高齢者に多い疾患の特徴や有病者数について、加齢現象や機能的変化の説明を交えながら解説を行う。
2. 高齢者の死因について (10分)
高齢者の死因について、死因の順位や移り変わりについて解説を行う。



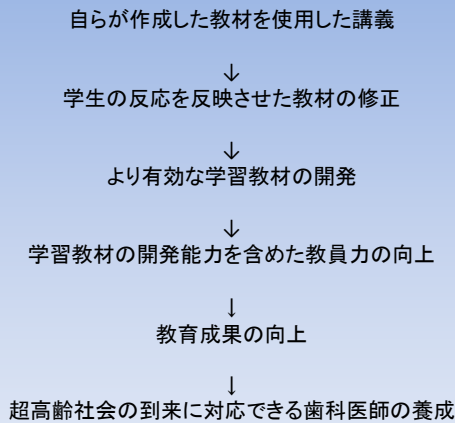
⑤ ポストテスト

- Q5 心房細動(AF)は、
- 1) 心房内で複数の()が無秩序に発生した状態である。
 - 2) 心房の興奮は1分間に()~()回で、基線の動揺(f波)として記録される。
 - 3) f波は()誘導が第Ⅲ誘導で確認しやすい。
 - 4) ()の間隔は不規則である。

⑥ 復習課題

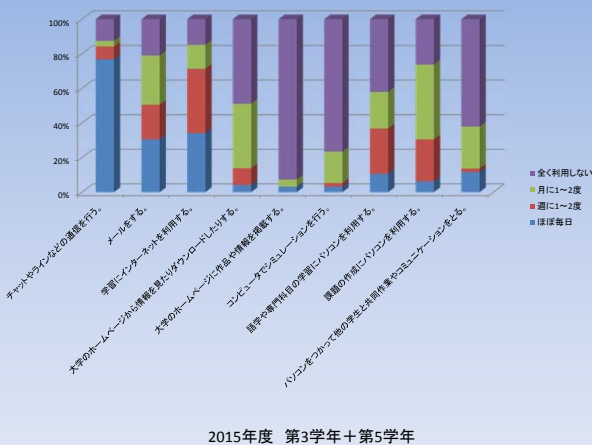
我が国で1970年以降、死亡率が減少傾向にある死因はどれか。1つ選べ。

- a 悪性新生物
- b 脳血管疾患
- c 心疾患
- d 肺炎
- e 自殺

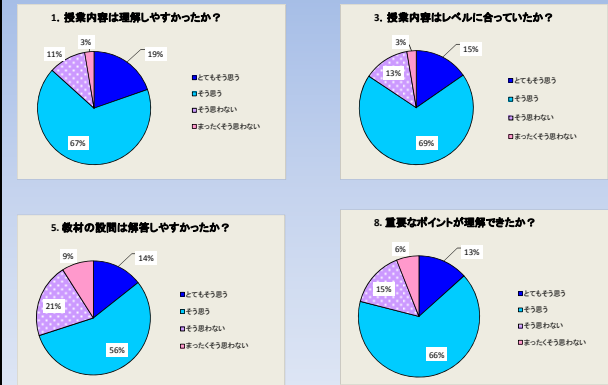


3. 高齢者歯科学を担当する教員

- 1) IT技術への教員の能力
Moodle: 本事業での経験を踏まえて、教材のマイナーチェンジ程度は可能であるが、**骨格の構築は専門技術者の協力が必要**である。
VP : **専門技術者の協力が不可欠**である。
ポートフォリオ: 技術的問題はないと思われる。
- 2) IT技術への学生の能力
ITの習熟度は全般に高くなっている一方、習熟度に差がある。
・メールからラインへ?
・PCからタブレットへ?



教育実践による改善効果とその確認
学生アンケート



4. まとめ 地域連携歯科医療実習への応用

- 昭和大学
 第1学年 地域連携歯科医療実習Ⅰ、初年次体験実習、在宅医療入門
 第3学年 地域連携歯科医療実習Ⅱ
 第5学年 地域連携歯科医療実習Ⅲ（平成28年度から）
 第6学年 学部連携地域医療実習（選択）
- 岩手医科大学
 看護・介護体験実習
 第1学年 看護・介護体験実習
 第2学年 歯科専門体験実習
 第5学年 介護体験実習
 地域医療体験実習
- 北海道医療大学
 介護体験実習
 第1学年 介護体験実習
 第2学年 医療施設実習
 第5学年 訪問歯科診療実習
 高齢者施設介護・口腔ケア実習
 学外歯科医療機関実習

地域連携歯科医療(昭和大学)



地域連携歯科医療(岩手医科大学)

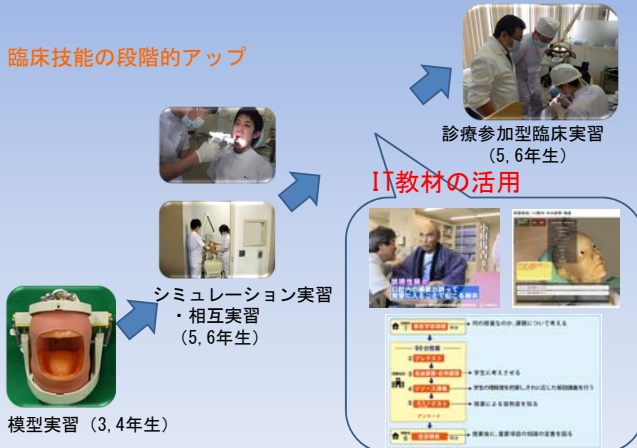


地域連携歯科医療(北海道医療大学)



歯科医学における臨床教育

臨床技能の段階的アップ



文部科学省 大学間連携共同教育推進事業

歯科医師会とITを活用した
 超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成

第2回 公開シンポジウム

2. 本事業の成果をより活用するために
 ー地域連携歯科医療実習への応用ー
 教員の立場から

ご清聴ありがとうございました。